

言葉の力と体験の力によって『伝え合う力』を高める

—ことばの教育とミュージカルの創作による各教科等横断的・総合的な学習を通して—

東広島市立高美が丘中学校

キーワード

「伝え合う力」「言葉の力」「体験の力」「各教科等横断的・総合的な学習」「相互作用（対話）」

1 研究の特色  
(1) 基本的な考え

本校は「確かな学力」と「豊かな人間性」を育成するために、総合単元的な道徳学習という方法を探っている。具体的には、道徳の時間を核に据え、各教科や特別活動、総合的な学習の時間を有機的に関連させた、各教科等横断的・総合的な学習を展開する方法である。その手段を、「言語技術の活用」と「ミュージカルの創作」に求めた。それは、体験の言語化・体験の経験化を図るためである。生徒が自らの体験を言葉に表し、他人に伝えるためには言語技術が必要であり、生徒同士の対話や相互作用が不可欠である。生徒が、言語技術を駆使して対話する中で、生徒同士の相互作用が成立し、「伝え合う力」が高まると考えた。

対話や文章から、論理を読み取り、論理的に考え、論理が適切かどうかを判断し、論理を適切に表現する力を育成することによって、生徒の「伝え合う力」が高まり、「確かな学力」が身につくことが期待できる。道徳の授業では、相互作用を通して道徳的思考が深まり、「道徳性」が育成されることになる。

このような、「伝え合う力」を高めるための営みが、真に「知・徳・体のバランスのとれた人間力の向上」につながると考えている。

(2) 「伝え合う力」の捉え

本校では、「伝え合う力」を次のように捉えた。まず、「基礎となる力」を「道徳性」「感性」「コミュニケーション能力」「基礎基本の学力」とし、知識・技能の習得や体験によって獲得する力とした。次に、「論理力」を「論理的読解力」「論理的思考力」「論理的判断力」「論理的表現力」とし、習得した知識・技能を生徒に活用させることによって育成される力とした。そして、それらの総合力を「課題解決力」とし、習得・活用された知識・技能を使って探究することの喜びや楽しさを生徒に感得・体験させ、そのことによって自ら課題を発見し解決しようする意欲を育成する力とした。以上の「基礎となる力」「論理力」「課題解決力」を育成することによって、生徒に「伝え合う力」をつけることができると捉えた。

(3) 総合単元的な道徳学習の展開とその手段

本校では、道徳の時間を核として、各教科、特別活動及び総合的な学習の時間との有機的な関連をもたせた、いわゆる「総合単元的な道徳学習」を展開している。そのことによって、各教科等において習得・活用された知識・技能を総合的にかかわらせて探究しようとする、すなわち学ぶ意欲の高揚によって「課題解決力」を育成しようとしている。これらのことをもって「伝え合う力」を高めることとした。

本校では、本県が推進している「ことばの教育」、とりわけ「言語技術の活用」と、本校が特色ある学校文化として位置付けている「ミ

ミュージカル『高美が丘』の創作」を手段として「伝え合う力」を高めている。

以上のことをまとめたものが、研究構想図である。(別途資料)

## 2 実践事例

### (1) 研究の概要

#### ① 研究仮説

本研究の研究仮説は、「言葉の力（ことばの教育—言語技術の活用等）と体験の力（ミュージカルの創作等）を通して、相互作用（対話）を成立させ、自分の気持ちや考えを相手に適切に伝える力、「伝え合う力」を生徒に身につけさせることにある。

#### ② 研究の手立て

そのための手立てとして、各教科等において、言語技術を活用した相互作用（対話）の成立や各教科等横断的・総合的な学習—道徳の時間を核に据え、各教科等の有機的な関連を図った総合単元的な道徳学習—を展開している。このことによって、生徒の論理力すなわち論理的読解力・論理的思考力・論理的判断力・論理的表現力と、それらを支える道徳性・感性・コミュニケーション能力・基礎基本の学力や、それらの総合力としての課題解決力が育成できると考えた。そして、これらの教育活動を通して、生徒の「伝え合う力」を高めようとした。

#### ③ 研究方法

研究方法は、①生徒の実態や変容の把握に係る調査研究、②「伝え合う力」の捉えに係る文献研究、③実践理論の行動化に係る実践研究の3点とし、定期的なアンケート調査と文献研究、研究者を講師に招いての指導力向上を図ってきた。

#### ④ 研究組織

研究組織として、本校は3部会（道徳教育部会、ことばの教育部会、ミュージカル部会）とその部会を束ねる研究部会を構成し、組織的に活動することによって教師の個々の力量を高め、それが生徒への指導に結びつくように工夫した。

### (2) 実践内容

#### ① 研究内容

主たる研究内容は、「どのようにすれば『伝え合う力』を高めることができるか」である。具体的には、道徳の授業にあっては、言語技術を活用した「対話＝相互作用」の成立とそのことに基づく「道徳的思考」の深まりである。また、「ミュージカルの創作」によって「響き合うとはどういうことなのか」を追究し、各教科等において習得・活用した知識・技能をさらに深め、学ぶ意欲を高める、「探究型の教育」を創造することにある。

#### ② 言葉の力

道徳教育部会とことばの教育部会では、言葉の力＝「言語技術」を活用した授業によって「伝え合う力」を育成することを研究している。言語技術は、体験を言葉で表現することにおいて必要な技術であり、対話すなわち相互作用を成立させるための不可欠の技術である。

#### ③ 体験の力

ミュージカル部会では、体験の力によって「伝え合う力」を育成することを研究している。「ミュージカルの創作」は、その創作のプロセスそのものが対話＝相互作用の場となっている。

#### ④ 道徳の授業

道徳の授業は、総合単元的な道徳学習の核となるものである。そのため、各学年の実態に合わせ、毎週の学年会議で「主題」「ねらい」「資料」を年間指導計画に基づいて明確にし、学習指導過程を全員で検討した上で授業を行っている。その際、実施時の生徒の心に最も響く授業内容になるよう工夫している。

#### ⑤ 相互作用（対話）の工夫

よりよい資料提示と道徳性発達段階を意識した、よりよい指導過程によって生徒に道徳的価値の内面的自覚を図る授業につながると考えている。例えば、モラルジレンマを用いて、道徳性の発達段階の違いを意図した生徒同士の相互作用を成立させることによって道徳性を高めることができる。その際、心に響く資料を用いることによって、

より高い道徳的価値に触れさせることが生徒の道徳性を高めることになる。また、総合的な学習の時間の体験を、単なる体験に終わらせないためにも、体験の言語化・体験化を図るべく道徳の授業が工夫されなければならない。

⑥ミュージカル  
創作の効果

「ミュージカル『高美が丘』の創作」には、「伝え合う力」を高める効果がある。

本校のミュージカルの創作は、既成の脚本や演出方法によってその完成度を高めるものではない。オリジナルの脚本をドラマ化することで、生徒同士の相互作用により、自らの表現内容を深く見つめさせ、脚本に書かれている内容を奥深く理解させることができる。そして、どう表現すれば観ている人に感動を与えられるのかを追究することができるようになる。それは、ミュージカルの創作の過程で「総合単元的な道徳学習」を展開することによって、引き起こされる。そのことを基盤とし、論理力（「論理的読解力」－「論理的思考力」－「論理的判断力」－「論理的表現力」）が育ち、「伝え合う力」を高めていくことになる。

3 研究の評価

(1)研究の結果

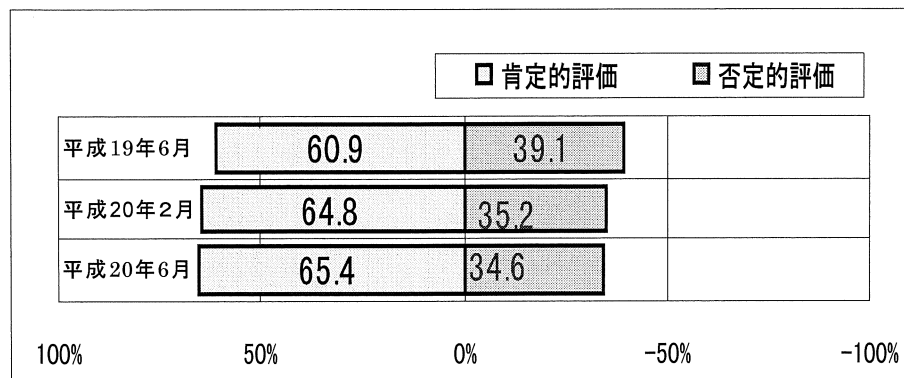
①全体計画及び  
組織体制づくり

本研究の特色とも言える各教科等の横断的・総合的な学習を充実させるには、組織的・計画的・発展的な取組みが不可欠である。現在の進捗状況は発展的な取組みにまで至っていないことから、5段階中の3段階として自己評価する。

②伝え合う力の  
評価

生徒アンケートの「あなたは自分の気持ちをことばで伝えることができますか。」という質問に対して、肯定的に評価した生徒が平成19年6月と平成20年2月と平成20年6月で、次のような結果が見られた。言葉の力の成果だと思っている。

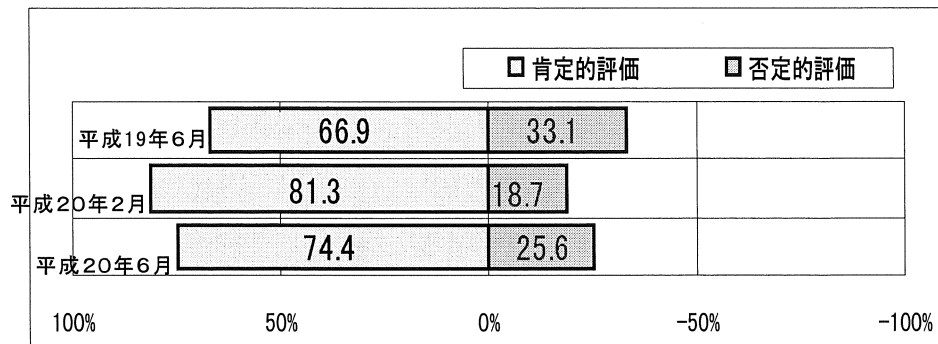
**「あなたは自分の気持ちや考えをことばで伝えることができますか。」**



③ミュージカル  
効果

「あなたは体験活動（ミュージカルの創作）の場で物事を解決したり決めたりするとき、なぜそうなるのかを考えることができますか。」の肯定的な評価が、ミュージカルの創作を行った昨年の3年生では、平成19年6月と平成20年2月と平成20年6月で次のような結果が見られた。これは、「体験の力」を通して伝え合う力を高めるための効果的な指導方法として、ミュージカル効果を挙げる結果だと考えている。

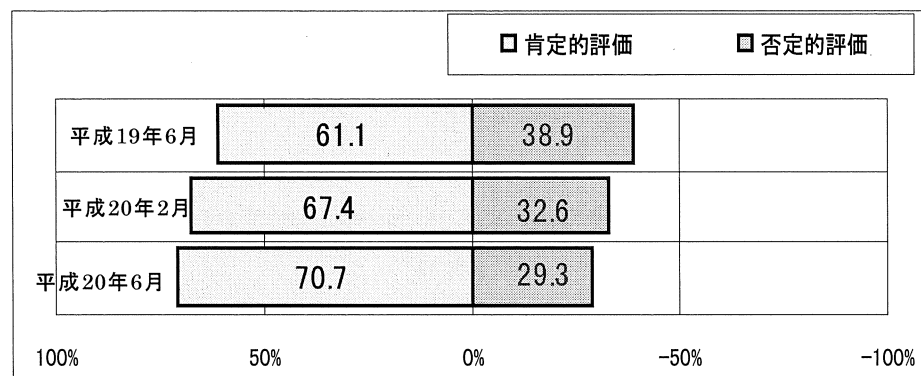
「あなたは体験活動（ミュージカルの創作）の場で物事を解決したり決めたりするとき、なぜそうなるのかを考えることができますか。」



④相互作用

生徒アンケート「あなたは自分と違う意見を受け容れながら、自分の考えを話すことができますか。」の肯定的な評価が平成19年6月と平成20年2月と平成20年6月で、次のような結果が見られた。

「あなたは自分と違う意見を受け容れながら、自分の考えを話すことができますか。」



(2)研究の成果

研究の成果として、言葉の力「言語技術の活用」と体験の力「ミュージカルの創作」を手段とし、総合単元的な道徳学習を展開することによって、生徒の伝え合う力が高まりつつあることが生徒のアンケート結果や教師の観察から見られる。

4 今後の課題

今後の課題は、「道徳的思考」の深まりを意図した相互作用を成立させるための、パイロット役としての教員の授業力を向上させることである。

また、「言葉の力」によって、習得した知識・技能を活用する「活用型の教育」を重視するとともに、「体験の力」すなわち、総合的な学習の時間で価値や真理を探究する「探究型の教育」を深めることによって、生徒の「伝え合う力」の更なる向上を図ることである。